

荒砥高生 紅花摘み お手伝い



紅花を摘み取る荒砥高の生徒

紅花の生産量日本一を誇る山形県白鷹町で、地元の小中高校生らが摘み手のボランティア活動をしている。摘み手の確保に苦勞している生産農家を支援するため、町の要請で2018年から続けている。

7日は荒砥高の全校生徒58人が十王地区の紅花畑を訪れ、黄色から紅色に変わ

り始めた花を丁寧に摘み取った。3年菊地彩衣さん(17)は「紅花にはとげがあつて大変だったが、町の産業に貢献できてうれしい」と目を輝かせた。

町の紅花生産量は年間約140キほどで推移しており、県内生産量の5割以上を占める。しかし、農家の高齢化に伴い、摘み手の確

保が年々厳しくなっている。

荒砥高の支援を受けた安部武さん(76)は「収穫期間は1週間程度と短く、摘み手はいくらでも欲しい。ありがたい」と感謝していた。生徒が収穫した花は、安部さんが加工して染色などに使われる「紅餅」になるという。